

令和3年2月14日（日）協働のまちづくり活動支援事業報告会を開催しました！

■ 開催の主旨

市民と行政による協働のまちづくりを推進するため、NPO・市民活動団体等と市民の皆さんとの交流と地域コミュニティの再生や住民主体のまちづくりを考える機会として、市が支援した協働のまちづくり活動支援事業の成果発表となる令和2年度報告会を開催しました。

1 日時・場所

- 令和3年2月14日（日） 午後1時30分～2時35分
- 市民交流施設ぷらっと（江別市東野幌本町6番地43）

2 プログラム

- 協働のまちづくり活動支援事業の事例報告

○報告団体（報告順）

- ①えべつあそび場創造プロジェクト
- ②ACネットワーク研究会

- 事業報告会コメンテーター（左から、尾形氏、武田氏、工藤氏）



- 尾形 良子 氏（北翔大学 生涯スポーツ学部 健康福祉学科 教授）
武田 正義 氏（江別市自治会連絡協議会 会長）
工藤 多希子 氏（江別市女性団体協議会会 会長）

●各団体の事業報告及びコメンテーターの質疑・コメント（概要）

① えべつあそび場創造プロジェクト 「あそび場を増やそう」



<事業報告内容>

えべつあそび場創造プロジェクト、略して「あそプロ」の、令和2年度の活動の報告を行う。

えべつあそび場プロジェクトとは、地域に住む子ども達にあそび場の提供、あそプロに登録している各あそび場施設にて、毎月1回日曜日に地域の子も達を対象としたあそびの会を開催している。あそプロ所有のおもちゃで、子どもたちに自由に遊んでもらう会。参加した子ども達は、普段と異なるあそびができることを喜んでおり、有意義な事業であると実感している。

新型コロナウイルスの影響について

・あそび場が減ったけど

当初は介護付有料老人ホーム蓮音および静苑ホームでのあそびの会の実施を計画していたが、施設入居者との感染リスク(うつす、もらう)回避のため開催を自粛、現時点でも再開の目処がたっていない。しかし、札幌のNPO法人みなばから、市内のまごころハウス緑町での地域食堂と共催を持ち掛けられ、8月より第3のあそび場として活動を開始した。まごころハウスはあそび場会場である交流スペースと老人ホームの玄関が別々になっており、内部も壁で完全に遮断されている。この構造により感染リスクは非常に小さいと考えられ、安心して遊べる場となっている。参加者にはマスク着用、手指消毒をお願いし、また来場時に検温を行っている。また、子どもが口にしようなおもちゃは使用後に消毒している。

・できることをやろう

あそびの会は室内を想定したものだが、開催の目処が立たないため、外あそびの会の企画を行った。これは活動目処が立たない他団体との交流・連携の機会になった。昨今の自粛ムードの打開策になればと考えている。本年度の連携相手と活動実績は以下の通り。

江別市青少年サークル：

9/5 外あそびの会「ミニ遠足」でレクリエーションを担当

えべつにプレーパークを広める会：

9/13 外あそびの会「公園あそび」を共催

よしたか農園：

9/19、9/20 収穫祭とあそびの会を共催

あそび場を増やそう

・あそびの会の様子

実施の写真。先程の連携団体との様子になる。

・参加人数実績（2021年2月14日現在）

本日時点での参加者実績は、子ども154名、大人152名、合計306名、140家庭。

参加者の声としては、「イベントがなくてやることがなかったが、この会は密にならない規模で遊べるのがよい」「いい場なのに参加者が少ないのが不思議だが、増加はしてほしい」という声があった。活動を継続していたことが評価されたと感じる。コーヒーの提供も好評で、寄付者も増加傾向にある。

課題の達成

あそび場の増加の部分は、今年度新たに開催した、まごころハウス緑町だけではなく、来年度にココルク江別で新たにあそびの会を開催することが決まっている。ココルク江別は、協働のまちづくり活動支援事業の公開プレゼンテーションをみて、この活動に興味を持ったという話で声をかけられた。情報発信の大切さを実感している。

あそび場の協力という点では、まごころハウスは、まだ会の運営をしてもらえない状況ではないが、みなぱと共催することで、負担を軽減出来ている。

おもちゃの貸出の取組は、蓮音で行う事を想定していたが、今年度は実施出来なかったため未達となる。

他団体との連携は、今年度の活動のほとんどが他団体との連携だった。コロナ禍での自粛傾向が、他団体との連携に注力することになり、結果的に出来る事を増やせたと思う。来年度のココルク江別での活動も、他団体との連携を想定して企画中。

収支決算

赤い羽 with コロナ草の根活動応援助成を活用することが出来た分が増えている。その分おもちゃの購入等を増加している。

今後に向けて

イベント事は自粛傾向にある状況だが、あそびの会は開催し続けたことで、参加者は安心して遊べるイベントだという認識になっている。今後も継続する方針とし、誰でも気軽に参加でき、楽しい時間を過ごしてもらいたいと考えている。

あそび場の協力については、施設主体の運営に徐々に移行していきたいと考えている。ココルク江別で実践する予定。

<質疑応答>

【武田氏】

新型コロナウイルス感染拡大の中で、具体的にどのような感染対策を行ったのか、活動を行っていくうえでの不安な部分はあったかを教えてほしい。あと、コーヒー等飲食を提供するうえで、気をつけたことや、提供する事への不安などはあったか。

【えべつあそび場創造プロジェクト】

まず、感染対策としては、マスクの着用、入場時の消毒をお願いしていたが、来場の子ども達も

基本的な事は理解があるようで、開催時に不安なところはなかった。また、あそびの会は、大勢の参加者を想定しているイベントではなく、密にならずに進められた。今後参加者が増加した場合には再度検討しないといけないが、現状の規模での開催であれば、リスクはそれほど多くはないと考える。コーヒーの提供の部分についても、参加者は平均 10 数名の為、低リスクと考える。

【工藤氏】

コロナ禍の中で、工夫された活動をしていると思う。参加人数もこの規模の中、広がってほしいと思う。また、別の助成金の獲得も達成出来た点も良かったと思う。今後、活動を維持する上で、他の助成金の活用等の考え方を教えてほしい。

【えべつあそび場創造プロジェクト】

資金の部分については、出来る範囲で活動する予定。助成金を獲得出来れば規模を広げるが、出来ないときは現状あるもので活動していく予定。助成の機会があれば、活用していく予定。

【工藤氏】

資金は大事なものであり、今回は獲得出来たので、今後も引き続き検討して活動を続けてほしい。

【えべつあそび場創造プロジェクト】

積極的に応募して活動を進めていきたいと考える。

【尾形氏】

高齢者との場作りという領域が今回出来なかったという点を逆手にとり、新しい団体と協働を広げていけたことが喜ばしい。今後、ココルク江別で月 1 回実践出来るとの話だが、今回の応募時点では、代表が主な担い手だと聞いていたが、今後、ココルク江別と他の場で各月 1 回の開催というスケジュールを考えると、一緒に活動出来る仲間を増やす事が必要だと思う。その点はどうか。

【えべつあそび場創造プロジェクト】

報告発表では触れられなかったが、まごころハウスでのあそびの会の開催にあたり、まごころハウス近隣に住んでいる人に新たにスタッフとして入ってもらった。その人と、もう 1 名のメンバーで、まごころハウスは開催してもらっている。ココルク江別にスタッフ全員を連れても行けないので、その近隣でも新たにスタッフを募集していく予定である。方法については課題があるが、負担軽減のためにも、進めていきたいと思う。

【尾形氏】

ぜひ、検討してほしい。

② ACネットワーク研究会 「小中学生のラジオ職業体験事業」



<事業報告内容>

コロナ禍でも喜ばれた職業体験で反響があり喜んでいただいて、実施してよかった事業だと思う。

事業の要旨

江別市内の小中学生に募集をかけ、ラジオ放送の出演や企画をする職業体験。実際のラジオやテレビに出演するというスペシャルな体験をしてもらう。実際のスタジオは、新札幌サンピアザ内 FM ドラマシティスタジオという、いわゆる地域FM局で、77.6MHzでの放送をしている。電波の範囲は厚別地区から江別市でも新さっぽろ寄りの地域で聞くことができるが、同時にインターネット配信で、全道・全国で視聴が可能になっており、全国のリスナーから即時反応があり、その事が実際の放送の醍醐味である。

開催概要

前年までの事業に比べて、参加校・参加者ともに増加している。支援事業に採択してもらったことにより、市内すべての小中学校に周知し、募集をかけることが出来た。予定通り放送は2回実施、計5学校12名の参加・出演という結果であった。コロナ禍の中での放送ということで、衛生や消毒というところの苦労もあった。スタジオに依頼して、プラズマクラスター(発生器)の設置や、手指消毒設備の設置、換気を行った。更に、安心のために非接触型体温計、普段の出演者への行動履歴の調査票記入への協力を依頼するなどの対策の取組を行った。

募集の苦労

- ・当初、スタッフで手分けして各学校へ訪問して(事業の)説明と配布を行う予定だったが、春の休校を経ての部外者の立入り不能期間が設けられた事、市外スタッフの行動制限等のため、予定通りにいかなかった苦労があった。
- ・昨年度までのポスター書式のを各校に配布したが、協力企業の告知等があったものの為、学校での配布に難色を示された。我々も学校へポスターを直接持ち込むことが初めての経験だった為、想定外だった。これについては別途説明する。
- ・秋以降、学校行事の中止や、カリキュラムの過密の中、学校とコミュニケーションを取ることが困難になった。
- ・最終的に、児童と保護者に口コミで伝えてもらう方法をとらざるを得なくなった。SNSやホームページ・インターネットの活用で急遽募集方法を変更した。

予算と使用実績

概ねプレゼンテーションで示した通りだが、大きな変更点は2つ。

1つ目は、ポスターの需用費。協賛の塾名が入っていた事がネックとなり、回収した為、費用計上できなくなった。我々としては、学校の外の活動なら協賛企業の告知があっても支障ないと捉えていたが、良い経験となった。

2つ目は、募集方法を SNS やホームページへ変更した際の費目の変更が発生したが、事前変更申請の対象と分からず、計上に至らなかった。(12,920 円)ただ、SNS などのネットでの口コミが有効であることがわかったので、今後はネット主体で個人に情報を伝えていく方向になると思う。

支援予算の効果

スタジオ使用料、コーディネーター謝礼、音源の家族への提供、新型コロナ対策については、助成金による支援は見込み通りで実施出来た。チラシ印刷等については、実績で述べた通り。

感想・まとめ

コロナ禍で状況が厳しい中、開催することが出来て、昨年度より多数の児童生徒や学校数の参加の増加が見込めた。

色々変更のあった中で、最終的にはポスターでの周知は学校から許可を貰えたが、学校へ出入りしている教員・保護者・職員からの反響が大きく、周知の効果が高かった。

また、保護者が積極的で、貴重な機会という感想をいただいた。また、非日常の体験ということで、子どもが自信を持てたという感想をいただいた。

<質疑応答>

【武田氏】

この新型コロナウイルス感染拡大の中で、非常に頑張ってくれたと思う。今後も引き続き頑張ってもらいたい。

【A C ネットワーク研究会】

コロナの中で、日に日に変化に対応するという事で、諦めるとかではなく、工夫して対応することで、当初の目論見とは変わったけれども、最終的には喜ぶ児童が増えてくれたことは、おっしゃるとおりかと思う。

【工藤氏】

今の報告を聞いて、感染対策を大変整えてくれた事を実感している。報告資料の中のスタジオの中の写真で、どの程度の広さのスタジオでどの人数で行っていたのかが気になった。また、今回、スタジオの費用を助成金でまかなえた点が良かったとのことだが、今後どの様に続けていく考えなのか、教えてほしい。

【A C ネットワーク研究会】

1つ目のスタジオの広さとコロナ対策、いわゆるソーシャルディスタンスの件だが、スタジオの広さ自体は、大体 12 畳くらいのスペース。御覧になったように放送時のマイクのブースターは限りがあるので、個々の距離を、隣同士が 1 m 2 m とか取れないのは実質なところ。その中で、一つは常に換気ということで、扇風機を回している。また、スタジオのドアは普段閉めているが、開放してということで、常に外の空気が入る状況を作った。それから、ワンダーストレージというスタジオのネーミングライツスポンサーに依頼して、プラズマクラスター発生器を置いてもらった。普通に手指消毒も行っている。(児童・スタッフが) 向い合せの所には、パーティションの亚克力板が

入っている。プラス、仮に、我々が感染していない・安全ということを徹底したとしても、万が一前後の放送や前日の放送で(スタジオに)出入りする人がいるので、非接触型体温計と、行動の記録、誰が出入りしたのかの記録は局の方では分かっている、我々サイドとか、例えば行政が調べる時に台帳がなかったのも、それを我々が依頼してスタジオにつけてもらった。あと、聞きづらけれども、(出演者には) マスク装着を優先してもらった。その部分はかなり徹底できたかと思う。また、指摘の通り、スタジオは少し狭いので、常時換気をすることで対策になったと考える。

2 回目の質問の、スタジオ使用料がかかる件だが、スタジオ使用料を毎年確保しないと事業が継続出来ないという指摘だが、ひとつは、普段やっているような(地元企業などからの)協賛金集めをしている。(ラジオ放送が) インターネットでの同時配信という点の周知が出来てきた感触があるので、今回調べてみたが、視聴率というか、「いいね」を押してくれた人が、何人に拡散するか調べてみた。必ず「いいね」をつけるわけではないけれども、何人まで情報が段々伝わっていったかを数えたところ、3 万リーチしていることがわかった。例えばチラシを 3 万枚作って配りたいという企業に対して、実は 3 万枚のチラシを配っても、それで実際にチラシを見てくれたかは分からない。受け取ってすぐ捨てる場合もある。3 万リーチというのは、実際の閲覧者が 3 万人いるというデータになっているので、また、職業体験で小学生が(実際の放送に) 出るケースは少ないので、非常に注目されたということもある。万リーチ位する媒体なので、チラシを配るよりも広告効果があるということで企業協賛を更に求めることが出来るということが一つ。それから小学生が職業体験をして非常に反響があったということで、協賛してくれることによって、子ども達の職業体験にその企業も参加する形で、企業の価値を高めることができるということを PR していくことで、職業体験自体がさらに協賛を集める、ひとつのポイントになってくるのではないかと、そういう活動をしていきたいと思う。先程のプレゼンテーションを聞いたら、他の助成による支援の仕組みも我々も活用すべきかと感じたので、それについては調べていきたいと思う。

もう一つ、今回、保護者の方がものすごく積極的に進めてくれた。子どもが「どうしようか」と迷っていても、「あなた絶対出るべき、出なさい」というプッシュをしてくれたり、ママさん同士の口コミでこういう職業体験があることが伝わって行って、募集(応募)につながったという事がある。少し話はそれるが、自分は食育をやっていて、以前、農水省の委託で、目黒区がどうして食育が盛んかという調査をしたことがある。目黒区は昔から習い事や学習塾が多い地域だった。イコール、教育に対して熱心な自治体やエリアは、食育や子どもの職業体験に対して、いわゆる子ども世代に対して投資をする考えがあるという相関関係があることがわかった。今の話をこの事業に当てはめると、江別市は、教育熱心だとか、学習の全国的なレベルが高いと仮定をしたり、大学や文教都市みたいなところであれば、市民の中からもっと応援者や、スタッフという意味もあるし、小口の募金的なものもあるし、そのような形で募集出来るのではないかと非常に、そのような思いを深めたので、今後トライしていきたいと思う。

【工藤氏】

よく地域の把握をされていて、江別は確かに教育熱心で、教育の高さもレベルアップとしているので、今後も頑張ってもらいたい。

【尾形氏】

今回の実践活動に関して、子どもにとって得難い体験が出来たことで喜ばしく思っている。3 点ほど確認したい。

まず、1 点目、子ども達の職業体験とうたっているからには、自分が考えるに、本番のラジオ（放送）に出演することだけではなく、それをいかに作るか、企画段階が大変重要で、そこが充実していることこそが職業体験という所につながるのではないかと思う。本番だけであれば、視聴者が集まってくる回にちょっと出る、そういった事でもクリアされることもあるが、今回の肝は企画部分なのではと感じている。小学生が今回出演するにあたって、どの様に企画部分を実践していったのかという点を聞きたい。また、そこにコーディネーターという方が関与しているらしいということが分かったのだが、そこに、どの様にコーディネーターが関わってやりとりをしていたのかを教えてください。

【ACネットワーク研究会】

企画段階の関わりだが、2つある。出演する小学生自体が、お便りの募集テーマというものがあるので、それを事前に子ども同士で考えて貰った。お便りの募集テーマは、小学生らしい、「あなたが小学生時代に経験した大きな失敗」とか、そういったことが設定されて、それに対して、愛媛のリスナーさん、東京のリスナーさん、札幌のリスナーさんなどが反応して実際の番組に投稿してもらうという、双方向のやりとり、ないし番組がスタートする前にそれを企画で発表する、ということを行った。もうひとつは、中学生世代になると、逆に出演は恥ずかしいけれども企画は協力してみたいというところがあり、番組中に3回音楽を流すコーナーがあるので、中学生にはその選曲を担当してもらった。

単純に好きな曲だとか、企画を考えたチームがふさわしいと思ってくれる曲を用意してほしいという事と音源を用意してもらう事、音源はCDを用意するのか、ダウンロードしたものをCDに焼いて用意するのか、ダウンロードのURLを渡すのか、それも考えてもらった。

素晴らしいと思ったことは、小中学生らしい曲と思っていたが、ドラマの曲やヒットチャート、米津玄師とかYOASOBIだとか、そういう曲がリクエストに入る、第二中学校の生徒は、自分たちの仲間内の中で何が流行っているのかアンケートをしてくれて、その中で選んでくれたりした。他にもいろいろと考えてくれ、このような選び方はどうかと提案してくれた。

コーディネーターの役割としては、募集にも協力してもらい、配布先にも参加者募集の協力を行ってもらった。

また、中学生の企画に対しても調整を行ってもらい、こちらにもフィードバックをもらった。AC ネットワーク研究会のメンバーが周知していること以外のコーディネート部分で助けられて部分が非常に大きかったと思う。

【尾形氏】

それでは2点目に移りたい。このスライドの4番と書いている所についてお聞きしたいのだが、実は1点驚いた事がある。小西さんは、話も上手だし、色々なご経験があって、慣れた方だろうと思っていたが、この「変遷1」の所で、学習塾の宣伝が入っているチラシを学校で配布は厳しいという事があったことに驚かれた、と聞いて、驚いた。自分の感覚でも、ある学習塾の宣伝が入っているチラシは学校では配れないに違いないだろう、という感じがあったので、すごく違和感があったのだが、そこに関わって結局当初の募集が出来なかったという話があり、しかもまた今こんな感じで(小中学生に)声をかけたという具体的な話もあったのだが、結果的にトータルとして、お子さんの募集のチラシを配れなかった事によって、実際に、どんな募集をして、どのくらいの子どもが集まってきたのか、少し詳しく教えてください。

【ACネットワーク研究会】

最終的な人数については小中学生 12 名、学校数も 5 校という結果。ポスターを後日掲示で全部の小中学校に依頼した。ポスター見たとか、保護者の方から声があったので、この事業が存在するという事は、江別市内全体には周知が出来たと感じている。学習塾の広告が入っているものは、学校には配布出来ないという事が、今まで経験がなかったので、反応が分からなかったという部分と、自分の子供が進研ゼミのチラシ等を学校から貰ってくる時があって、学校で配布出来ないという感覚を持っていなかった。事前調査をしていたら、結果論ではあるが、チラシ不配は起きなかった。経験や反省点と考えている。

【尾形氏】

もう 1 点、お願いしたい。更に細かい話で大変恐縮だが、「6. 感想まとめ」の所に写真が出ていて、子ども達が楽しそうにやっているのだと、とても感じられる写真だが、ここを見ていると、子ども達は多分自前のマスクをしていると思ったのだが、「4. 予算と使用実績」で、支出項目に「消耗品 マスク」とある。これは、マスクを買ったけれども、もしかして使っていないのかと見えるので、この点についての説明をお願いしたい。

【A Cネットワーク研究会】

事前に当日マスクを持参して下さいとか、普段布マスクを使っているからいらないというところの確認には至らなかった所は確かにあるのだが、この事業をやるにあたって、まずコーディネーターが、現場で打合せの場合や、マスクを忘れてきた場合を考え、事前に用意したということがひとつ、当日、皆さんに、箱で買ったものを人数で頭割りし、リスクの説明をしたうえで、どちらか好きな方を使って下さいとお配りしたという状況になる。その上で、児童が普段慣れているマスクがいかどうかは、保護者と児童のかたにお任せしたという事である。あと、配布したマスクで余ったものは、保護者の方にもお配りして使用して頂いた。

【尾形氏】

マスクの件は分かった。この活動は、子どもにとって、一生に一度あるかないかの、重要な活動経験だと思うので、スタジオ使用料の金額が高額で大変だとは思いますが、協賛企業などを増やして、継続できたら良いかと思う。

<コメンテーター総評>

【工藤 多希子 氏】

コロナ禍の中の活動が昨年から続いておりますが、その大変な状況の中活動されていることに対してとても感心しております。今後、いろいろな経験を活かしながら、今日出た意見を役に立てて頂けたらと思います。

皆さん1年間お疲れ様でした。

【武田 正義 氏】

これからも是非、頑張ってくださいと思います。

【尾形 良子 氏】

今回は2団体の応募でしたけれども、例年であれば、いろいろな活動をしてみたいという市民の方々が頑張って、様々な活動に助成金を得て、事業を広げたり、質の高い活動を行ったりしてもらっていると思います。

私たちは皆さんの活動を逐一知らなかったりしますが、今日のような報告会をお聞きして、江別市民がこんなに頑張っているという事に励まされる思いです。

これからも子どもの為、ご高齢の方々の為、障がいのある方の為、隣人、江別市民の方々のために頑張ってくださいと思います。